

家庭犬マナーチャレンジ上級編レギュレーション
(実技テストの内容および合否判定の基準)

1. 対象

JAHA 家庭犬マナーチャレンジ（ベーシック編）に合格している犬と飼い主のペア

2. テスト受験にあたっての注意事項

(1) 首輪・リード等

プレミアムタイプ、一般の首輪、ジェントルリーダー、イージーウォークハーネスなど、JAHA のインストラクターが推奨する道具を使用すること。チョークカラー（引き締め首輪）、ピンチカラー、スリッパカラーなどの道具は使用不可。

テスト項目によって道具を変えても良い。ただし、脱着に手間取ったり、脱着を嫌がる場合は不合格となる。フレキシリードは指定された項目のみ使用可。

(2) 吠えに関して

飼い主が犬の吠えを十分コントロールできていて、吠えないように対応できていること。
唸りについても同様。

(3) 飛びつきに関して

実際に飛びつく行為はNG。飛びつきを防止するためにリードを踏む、抱き上げるなどの対応は可。
ただし、犬の姿勢を強制的に固定するような踏み方は不可。

(4) おもちゃ

おもちゃは使用不可。

(5) フード

フードポーチの装着可。

コングの使用不可。

ガムなどの長時間噛むおやつは不可。

フードは規定の範囲内で使用可。

※ただし1回あたりの報酬のフードはドライフード1粒程度の量とする。

【フード使用】 テスト中必要に応じて報酬のフード可 の項目*では、終了合図の後だけでなく、テスト中も必要に応じて報酬としてフードを与えることができる。

*「家庭内マナーa」「動物病院マナーb」「動物病院マナーc」

【フード使用】 報酬のフード可 の項目では、ジャッジの終了合図が出た後に、報酬としてフードを与えることができる。テスト実施中、終了合図前にフードを使用することはできない。

(6) 音声シグナル・ハンドシグナル

シグナルは、一回の指示で犬がその行動をしない場合、もう一度同じ指示を出すことができる。ひとつの行動に対して出すシグナルは2回までとする。(音声シグナル単独使用=1回、ハンドシグナル単独使用=1回、音声+ハンドシグナル使用=1回)

声の大きさは、基本的に「周囲が不快と感じない常識の範囲内」と上級編ジャッジが判断できるレベルであること。

ハンドシグナルの継続提示可。

【必要な犬の行動の内容と数】が示されている項目では、それに示された行動に対してシグナルを使用できるものとし、「ひとつの行動に対して出すシグナルは2回まで」とする。

(7) タイムアップ

音声シグナルを出してから3秒以内に、犬はその行動をスタートすること。

(8) 禁止事項

リードを引っ張って犬を動かすなど、強制的に犬を動かしてはいけない。飼い主は、犬に苦痛を与えないよう常に配慮すること。クレートは犬がリラックスできる適切なサイズを用意すること（大き過ぎるのも不可）。犬にストレスがかかり過ぎている場合は、ジャッジの判断でテストを中断することもある。

(9) その他

テストの進行については、ジャッジの指示に従うこと。ジャッジは各項目の開始と終了をはっきりと告げる。

吠える、攻撃する、コントロールができない状態が続く、他者への迷惑行為など、他の受験者への迷惑となる場合は、ジャッジの判断で、該当の受験者に対して退室を告げることもある。

リードの付け替え、クレートの出し入れ、クレート内でのリード付け外し、診察台への上げ降ろしなど、飼い主は常に、犬および周囲の安全を意識した行動を取ること。

3. 合否判定

(1) 実技テスト

実技テストは、各項目に定められた規定（フードの使用など）を守り、かつ判定基準を満たしていること。全16項目をすべてクリアすることで実技テスト合格とする。

各項目を○△×で判定し、1項目でも×（NG）があった場合、実技テストは不合格となる。

問題なくできる・・・○、多少問題はあるができる・・・△、大きな問題がある、できない・・・×（NG）

(2) 筆記テスト

筆記テストは、80%以上正解していること。

(3) 総合判定

実技テストのクリアレベルによって「★（1スター）合格」、「★★（2スター）合格」、「★★★（3スター）合格」の3つのランクで判定する。

	実技テスト	筆記テスト
★★★（3スター）合格	16項目すべて○	80%以上
★★（2スター）合格	○が8～15項目	
★（1スター）合格	○が7項目以下	

※「犬連れキャンプ」の同伴犬として適用されるのは、3スター合格のみとする。

4. テスト内容と判定基準

<家庭内マナー>

a. お手入れ

【方法】飼い主による、ブラッシング・足ふき・歯のお手入れ（奥歯まで磨く）を、犬がおとなしく受け入れるかどうかを見る。

【フード使用】テスト中必要に応じて報酬のフード可。

*** ブラッシング終了後の報酬、足ふき終了後の報酬、歯のお手入れ終了後の報酬 各1回のみ報酬使用可。**

【判定基準】犬が嫌がったり、逃げ出そうとすることなく、お手入れができること。

【備考】お手入れ用品（ブラシ、タオル、歯みがき道具）は飼い主が普段使用しているものを持ってくること。

b. おいで

【方法】飼い主はリードをジャッジに預け（ジャッジは犬の首輪付近のリードを手に持つ）、犬から3m以上離れる。離れる際、マテはかけない。犬を呼びよせ、座らせおとなしくリードを付け替えさせるかを見る。犬が座った状態で終了。

【必要な犬の行動の内容と数】 オイデ→座る→待つ、の3つの行動。

【フード使用】報酬のフード可。

【判定基準】3m離れた場所から犬を呼び寄せ、寄り道をしないで来て、リードを付け替えるまで犬が落ち着いて座っていられること。

【備考】呼びよせ時のリードは、用意されているロングリード、飼い主のもの、どちらを使ってもよい（フレキシリードも可）。

c. フセで飼い主を待つ

【方法】飼い主はリードをジャッジに預け、犬を伏せさせる。犬が伏せた状態で、飼い主はその場から1分いなくなる。1分たったら元の場所に戻り、飼い主がジャッジからリードを受け取って終了。

【必要な犬の行動の内容と数】 フセる→（ハンドラーが離れる時）待つ→（ハンドラーが戻る時）待つ、の3つの行動。

【フード使用】報酬のフード可。

【判定基準】飼い主が戻り、ジャッジが終了の合図をだすまで、犬が落ち着いて伏せた状態を維持していること。

d. 離れた場所からオスワリ・フセ

【方法】飼い主は指定の位置で犬を座らせる。犬が座った状態で、飼い主はリードを持ったまま1.8m離れる。飼い主は遠隔で、犬を伏せさせてから、座らせる。飼い主が元の位置に戻ったら終了。

【必要な犬の行動の内容と数】（ハンドラーが離れる時）待つ→フセる→座る→（ハンドラーが戻る時）待つ、の4つの行動。

【フード使用】報酬のフード可。

【判定基準】飼い主の遠隔からの指示に従って指定場所で伏せて座ることができ、飼い主が戻ってくるまで、犬が落ち着いてそのままの位置で座っていられること。

<お散歩マナー>

a. 扉の出入り

【方法】飼い主は扉の前で犬を座らせて、扉を開ける。飼い主が先に扉の外に出た後、指示で犬を扉の外へ呼ぶ。犬を座らせて扉を閉める。犬が座った状態で終了。

【必要な犬の行動の内容と数】座る→（ハンドラーが扉を開ける間）待つ→（ハンドラーが扉を出る時）待つ→オイデ→座る→（ハンドラーが扉を閉める間）待つ、の6つの行動。

あるいは、座る→（扉を開ける間）待つ→（ハンドラーが扉を出る時）待つ→オイデ→座る→扉を閉められるように位置を変える→座る→（ハンドラーが扉を閉める間）待つ、の8つの行動。

【フード使用】報酬のフード可。

【判定基準】飼い主の指示に従い一連の動作が問題なくでき、終了の合図が出るまで、犬が落ち着いて座っていること。

【備考】教室の扉でもかまわないし、サークルの1面とイスなどを組み合わせて扉の開け閉めのシミュレーションができるかたちでも可。

b. 飼い主の横でタテ・マテ

【方法】飼い主は3m先の指定場所まで犬と一緒に歩いて行き、立ち止り、犬を飼い主の横に立たせた状態で10秒間キープさせる。立った姿勢を維持した状態で終了。

【必要な犬の行動の内容と数】歩く→立ち姿勢で待つ、の2つの行動。

【フード使用】報酬のフード可。

【判定基準】飼い主の横で、終了の合図が出るまで、立った姿勢を維持すること。

c. リードをたるませてのお散歩

【方法】コーンを3m以上離して2個おき、8の字で2周歩く。途中、指定の位置で2回犬を座らせる。スタートポジションに戻り、犬を座らせて終了。

【必要な犬の行動の内容と数】歩く→座る→歩く→座る→歩く→座る、の6つの行動。

【フード使用】報酬のフード可。

【判定基準】引っ張らずに落ち着いてお散歩でき、飼い主の指示で問題なく座ることができる（全行程の30%までの、引っ張り、匂いかぎまではOK）。

【備考】コーンはイスで代用してもよい。

d. モノが落ちていながら歩く

【方法】幅1.8m、距離3mに設定したコース上に、おもちゃ、ゴミなどを4つジグザグ状に置き、その間を歩く。ゴールラインを越えたら終了。

【必要な犬の行動の内容と数】歩くのみの1つの行動。

【フード使用】報酬のフード可。

【判定基準】おもちゃなどの誘惑となるモノに突進するなど過剰に反応することなく、飼い主と一緒に歩くことができる（全行程の30%まで引っ張りはOK）。

<旅行・おでかけマナー>

a. 犬の吠え声に落ち着いていられる

【方法】録音した犬の吠え声を10秒間再生する。その刺激に対して反応して吠えずに、飼い主へ集中できるかを見る。

【必要な犬の行動の内容と数】集中のみの1つの行動。

【フード使用】報酬のフード可。

【判定基準】犬の吠え声につられて吠えたり、逃げ出そうとしたり、興奮して暴れたりするなど、過剰に反応することなく、飼い主に集中できること。

b. クレートでの待機

【方法】飼い主は、指示で犬をクレートに入れる。リードを外して扉を閉める。飼い主はその部屋から出る。5分間たったら終了。

【必要な犬の行動の内容と数】クレートに入る→クレート内で待機する、の2つの行動。

【フード使用】報酬のフード可。

【判定基準】5分間クレートの中でおとなしく待機できること。

【備考】クレートに掛け布をかけてもよい。

c. オスワリまたはフセで飼い主は靴ひもを結び直す

【方法】飼い主は犬を座らせ（または伏せさせ）、しゃがんで靴ひもをほどき結びなおす。（ひも無しの靴を履いている場合は、床に置いた靴の中を10秒チェックする）

【必要な犬の行動の内容と数】座る→待つ、の2つの行動。

【フード使用】報酬のフード可。

【判定基準】飼い主が靴ひもを結び直すまで、犬が落ち着いて座っていられること。（または伏せていられること。）

d. カフェでおとなしく待つ

【方法】飼い主は指定された席に座り、犬を側に伏せさせる。途中、ウェイター／ウェイトレス役が来るので、受け答えをしたり、飲み物を飲む。その間、犬は伏せて3分待つ。

【必要な犬の行動の内容と数】待つ→注文を取りに来る際の飼い主への集中→飲み物を運んで来る際の飼い主への集中→待つ、の4つの行動。

【フード使用】報酬のフード可。

【判定基準】犬が落ち着いて伏せている間、飼い主がリラックスして飲み物を飲めること。途中で犬が立ってしまわないこと。

【備考】飲み物は飼い主が用意する。マットの使用可。

<動物病院マナー>

a. 足下でのフセ・マテ

【方法】イスに座った飼い主の足下で、犬を伏せさせる。その近く（1 m程度先）を他の犬と飼い主が通過する。（犬の向きは自由）

【必要な犬の行動の内容と数】待つのみ1つの行動。

【フード使用】報酬のフード可

【判定基準】他犬が通り過ぎジャッジから終了の合図ができるまで、落ち着いて伏せた姿勢を維持できていること。

※伏せた姿勢をとった後、飼い主がリードを踏むのは可。犬の姿勢を強制的に固定するような踏み方は不可。

b. 診察台に乗せ・診察を受ける

【方法】飼い主は、診察台あるいはトリミングテーブルに犬を乗せる。（大型犬は床の上でも可）白衣を着た人が、体のチェックをする。目を覗く、耳の中を覗く、口の中を見る、つま先、お尻のチェックをさせるか、を見る。飼い主は犬の安全に配慮し、必要があれば体を支えてもよい。

【フード使用】テスト中必要に応じて報酬のフード可。

*目を覗く終了後の報酬、耳の中を覗く終了後の報酬、口の中を見る終了後の報酬、つま先のチェック終了後の報酬、お尻のチェック終了後の報酬、各1回のみ報酬使用可。

【判定基準】嫌がったり、暴れたりすることなく、犬が落ち着いて診察を受けられる状態であること。

c. エリザベスカラーまたは口輪をつけさせる

【方法】白衣を着た人が、犬にエリザベスカラーまたは口輪を付ける。犬が装着を受け入れるかを見る。装着する場所（台の上／床）は飼い主が決めてよい。

【フード使用】テスト中必要に応じて報酬のフード可。 *器具の装着後 1回のみ報酬の使用可。

【判定基準】嫌がったり、暴れたりすることなく、犬が落ち着いてエリザベスカラー（または口輪）を装着できること。ジャッジが問題なく装着できたことを確認したら終了。

【備考】エリザベスカラー／口輪は用意されたものを使用するか、飼い主が持参したものを使用する。

d. オスワリ・マテで立ち話

【方法】飼い主は3 m先の人に向かって歩き、1 mくらい手前で立ち止まる。飼い主は犬を座らせ、対面した人と10秒間立ち話をする。その間、犬は座った状態を維持する。

【必要な犬の行動の内容と数】歩く→座る→待つ、の3つの行動。

【フード使用】報酬のフード可

【判定基準】ジャッジが終了の合図をだすまで、犬が落ち着いて座っていられること。